

事務局便り

令和4年7月4日

先生方には、成績処理等これからもまだ忙しさが続く毎日のことと思います。機関誌「家庭科」2号をお届けいたします。

*第72回研究大会へのご参加をお願いします！ 8月2日(火)・3日(水)

今回、チラシ・ポスター型の案内を同封いたしました。長い歴史の中でこれまでの様式が続いておりましたが、1枚でわかりやすく、知り合いや友人にも紹介しやすい様式で作成しました。申込みのQRコードも掲載していますので、まだ研究大会にお申し込みでない方は、ぜひお申し込みください。また、この案内をホームページから印刷することができますので、A4のチラシやA3に拡大してポスターにするなどの活用をし、多くの先生方に紹介をしてください。

なお、会場参加は50名までとしています。また、遠方の方は、オンラインでの参加もご検討ください。研究大会修了者には、「修了証」をお送りいたします。免許更新制の廃止に伴い、研修制度がどうなるかわかりませんが、文部科学省後援と教科調査官からご指導いただける本協会での研究大会に勝るものはないと自負しております。どうぞ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

*授業に生かす被服教材づくり 「タブレットケース」 & 「くまのぬいぐるみ」

1. 日 程 令和4年8月4日(木) 9:30~16:00
(基本的な裁縫用具、昼食・飲み物をご持参ください)
2. 会 場 東京都中央区晴海中学校 最寄り駅：地下鉄有楽町線・大江戸線 月島駅徒歩8分
夏期研修会のお申し込みは、まだ余裕があります。賛助会員様のご協力により、材料は準備されていますので、30名の参加者をお待ちしております。



“参加申込”は、右のQRコードから、Google フォームでお願い致します。

*研究大会・夏期研修会ともに、「派遣依頼状」をお出しますので、ご請求ください！

*“紙上総会”の実施について

お手元にお届けした「令和4年度 全国家庭科教育協会 総会 議案」について、書面による審議をお願いいたします。以下、決算・予算について簡単に説明します。

決算（歳入）

- 会費…定年退職と同時に退会される方が多くみられ、会員の減少につながっている。
- 賛助会員…賛助会員…新学習指導要領の「金融教育」に反応して、投資・証券関連の賛助会員が新たに加わった。
- 雑収入…夏期衣生活研修会を企画したが実施できず、また、チラシ封入依頼が少なかった。

決算（歳出）

- 全体として、コロナ禍を考慮し予算を少なめに見積もってしまったため、多くの項目で予算増が見られた。
- 人件費…事務局人事異動に伴い、1カ月間の引継ぎ期間の人件費が増額となる。
- 予備費…研究大会（オンラインのみ）及び春期研修会（対面 or オンライン）参加者減少のため予備費より補填。

予算（歳入・歳出）

- 会費…昨年度決算では 900 名を若干割っているが、中学校を含め若い先生方への広報に力を入れることを前提に、会員数 900 名での予算とした。
- 機関誌印刷費…印刷所より紙・インク代の値上げを理由に、1号に付き 2,750 円（税込）の値上げ。
- 交通費…常任理事会を対面で開催できることになり増額。
- 会議費…常任理事会会場使用料として増額。

*編集の経緯 2号「キャリアデザイン」3号「研究大会特集」4号「脱プラスチックの未来(仮)」

2号の編集会議をしたのは、昨年12月、1月。「コロナ禍で、働き方が変わってきている」という話題となり、「キャリア教育」について特集しようということになりました。法政大学は、「キャリアデザイン学部」というまさに本テーマを専門に学問している大学であるのでどなたかご執筆をとということで武石恵美子先生がご執筆してくださいました。企業での取り組みについて、厚生労働省実施のキャリアデザインアワードで大賞を受賞しているJTB株式会社様に依頼しました。学校での取り組みについては、何校か断られてしまい、常任理事の在籍校である東京学芸大学附属世田谷中学校の取り組みをご紹介いただきました。

現在4号の「脱プラスチック未来(仮)」の依頼を行っているところです。環境省の方から、この4月より施行された通称「プラスチック新法」について解説していただくことになりました。その他、企業の取り組みと大学関係者に依頼中です。生活からプラスチックをなくすことの意味を考えていきませんか。

*全国家庭科教育協会のシンボルフラワー「カーネーション」

研究大会の準備で、来賓の方々につけていただく胸章（リボン）を確認していると、「会長」「副会長」がつける胸章（リボン）も出てきました。なぜか、白い胸章です。そういえば、機関誌「家庭科」アーカイブでZKKのシンボルとして白いカーネーションを用いることになったという話が載っていたことを思い出しました。調べると、機関誌20巻6・7月号（1970年）は創立20周年特集号で「全国家庭科教育協会の創立当時の事情」という題で、常任理事の石田千代子、木村花、副会長大山サカエの3名の連名の記事にそのことが記載されていました。以下紹介します。



第一代会長山崎匡輔氏は当時東京都教育委員会の委員長をして居られた所からお願いすることになり、（昭和）25（1950）年5月14日会長推戴式が行われた。この日は第二日曜で母の日に当り、黒い服に白いカーネーションを胸につけられた山崎先生が参議院会館の門をはいってこられたのが印象的であったので、山本（キク）先生（当時文部省事務官）の提案により、カーネーションをZKKのシンボルとして用いようということになり、出版物に使われるようになった。

昭和25（1950）年4月1日に設立し、5月14日の母の日に役員総会と会長推戴式を行っていることを、「全国家庭科教育協会記事」として常任理事の岩瀬ムメノが記しています（雑誌「家庭科教育」24巻7号）。その記事には、役員総会での挨拶や、後にZKKの会長となる石山脩平氏の小学校の家庭科が教育課程でどうなるのかの現状報告が記されていると同時に、石山脩平氏も、「センチなようで大変失礼ですけれども、意識的無意識的に、私が十六才にして死別した生母に対する思慕が、裏づけとなっているかもしれないということを、たまたま今日、母の日に当たって、思ってみるのであります。」と母の日に触れて発言しているところが興味深いです。

以上のような経緯から、設立すぐから、ZKKのシンボルとしてカーネーションを用い、研究大会で、「会長」「副会長」が白い胸章（リボン）をつけていたと思われます。しかし、私が見つけた胸章（リボン）は残念ながら、カーネーションというより白菊でした。そこで、前事務局長に依頼して、白いカーネーションの胸章（コサージュ）を作ってくださいました。研究大会にいらっしゃる方は、ぜひ、「会長」「副会長」の胸章を見ていただくとともに、70年以上前から本協会が続いているという長い歴史を感じていただきたいと思います。

***お詫びと訂正** 1号と事務局便りに誤りがありました、お詫びして訂正いたします。

《 令和4年度会誌1号 》

表紙 誤：宝塚大学看護学部 教授 日高 康晴 正：宝塚大学看護学部 教授 日高 庸晴
p31 生徒のワークシートより 内の7行目
誤：「そもそも収入を支出のバランスを」 正：「そもそも収入と支出のバランスを」

《 事務局便り 》

表 13行目 誤：ご講演の要旨を、機関誌1号に 正：ご講演の要旨を、機関誌2号に